

『新教』・『教育改造』 索引

塩 原 将 行

(解題)

本索引は、創価教育学会が発行した『新教』およびその改題誌である『教育改造』のうち、第5巻第12号別冊⁽¹⁾及び第6巻第1号から第7号までの索引である。『創価教育研究』第5号(創価教育研究センター 2006年)において、「創価教育研究センター所蔵『新教材集録』索引」を発表したが、それに続くものである。

本稿は、次の3つの資料からなっている。

1. 『新教』・『教育改造』巻号別索引
2. 『新教』・『教育改造』執筆者一覧
3. 『新教』・『教育改造』の無記名の巻頭言

解題については、すでに『『新教』第6巻第1号掲載の牧口常三郎の論考5編』(『創価教育』第4号、創価教育研究所、2011年)で掲載しているので、本稿はその補足である。

『新教』・『教育改造』の存続期間と編輯者

『新教材集録』は、1930(昭和5)年11月の『創価教育学体系』第一巻の出版と創価教育学会創立後に発行された創価教育学の普及をめざした教育雑誌であるが、発行所は創価教育学会ではなかった。それに対して、『新教』は、創価教育学会の発行である。また、『新教材集録』と比較し、表紙⁽²⁾にも大きな特徴がある。それは、誌名『新教』と発行所「創価教育学会」のほかに1936(昭和11)年1月号から3月号までは「教育革命」「宗教革命」の文字が縦に大きな活字で印刷されていることである。しかし、4月号からはその活字は小さくなり、横書きで「教育 宗教革命」に変わる。さらに、『教育改造』では、誌名、発行所、発行月号のみとなって、「革命」という文字は表紙から消える。

(1) この別冊は、「第12号別冊」であり、「12月号別冊」との記載はない。『新教』第1巻第1号、55頁の「告」では、「昨十年十一月號の論文を、別刷として廣く頒つことにした」とあるので、この論文を12月号では再度別冊にしたとは考えられる。

(2) 表紙のデザインとカットは、林幸四郎が担当した。(「創価教育学会の草創の頃」『牧口常三郎全集 月報7』、第三文明社、1984年、7頁)。林幸四郎「創価教育学会の思い出」(『林幸四郎作品集』、林清弘、1991年)参照。

1936（昭和11）年5月発行の『新教』第6巻第5号によれば、当時の創価教育学会は以下の体制である。

創価教育学研究所長	牧口常三郎
創価教育学会常務理事	戸田城外
理事	山田高正 ⁽³⁾
幹事	渡辺力 ⁽⁴⁾ 、矢島周平 ⁽⁵⁾
「新教」編集部	渋谷信義 ⁽⁶⁾ 、小林済 ⁽⁷⁾
創価教育学研究所員	土岐雅美 ⁽⁸⁾ 、石澤泰治 ⁽⁹⁾ 、高地虎雄 ⁽¹⁰⁾

また、『新教』第6巻第1号の元旦の挨拶にも、牧口から小林まで同じ肩書きと氏名が掲載されている。1936（昭和11）年の『新教』1月号から6月号と『教育改造』7月号は、戸田城外を編輯兼発行人として、上記の体制で編輯された。1934（昭和9）年に発行された『新教材集録』の編輯スタッフ⁽¹¹⁾とは全く入れ替わっている。

牧口常三郎の立場は創価教育学研究所長であり、創価教育学会の会長は不在である。矢島から高地までの6人は長野県の元小学校教員で1933（昭和8）年に赤化教員として検挙されて離職、その後前後して創価教育学会の活動に参加するようになった⁽¹²⁾。その外には、次の13名の創価教育学研究員（東京市の各小学校に勤務）が紹介されている⁽¹³⁾。

木村光雄、三ッ矢孝、林幸四郎、大杉一好、木村栄、吉田義則、関谷悟六、菊池美夫、有村陽三、社信敬、柳田孝次郎、上村久三、桃井もき

『新教材集録』から『新教』への改題⁽¹⁴⁾の時期は、1935（昭和10）年7月頃⁽¹⁵⁾と考えられ

⁽³⁾ 戸田と共著で1933（昭和8）年4月に『推理式読方指導』第五、六学年用、4冊を出版している。

⁽⁴⁾ 牧口の三女ツナの婿、新潟県刈羽郡荒浜村出身。1931年に牧口と出会い、『新教材集録』の編集などに従事するほか、戸田の秘書的な仕事もしていた。

⁽⁵⁾ 岡村正著『名簿・1930年代教員運動』、2005年、56頁参照。

⁽⁶⁾ 同上、49頁参照。筆名丘村比呂人、1936年7月20日死去。

⁽⁷⁾ 同上、48頁参照。

⁽⁸⁾ 同上、51頁参照。

⁽⁹⁾ 同上、44頁参照。

⁽¹⁰⁾ 同上、50頁参照。

⁽¹¹⁾ 1934（昭和9）年発行の『新教材集録』各号の編集後記を見ると、編集長は、牧山（「生二」か）、スタッフとして、渡辺力、山田（「高正」か）、森重喜美子、辻、前川がいた。

⁽¹²⁾ 矢島秀覚（周平）「法華経かマルクス主義か」（『牧口常三郎』、聖教新聞社、1973年）475頁によれば、矢島は親友渋谷信義の紹介で1935（昭和10）年正月に牧口宅を訪問している。長野県の元教員では、1934（昭和9）年に渋谷が最初に創価教育学会に入会した。

⁽¹³⁾ 木村光男、木村栄、渡辺力、林幸四郎、有村洋三、三ッ矢孝は、創価教育学会の第1回研究生（妙悟空「人間革命 62」、『聖教新聞』1953年1月10日、1面）。

⁽¹⁴⁾ 1934（昭和9）年7月の『新教材集録』第4巻第7号の編集後記に、「『新教』を日本一の教育雑誌に、「我らの『新教』の爲に」という表現がある。また、同年8月の第4巻第8号の後記に、「僕が『新教』の編集部に入ってから」とあるように、『新教材集録』から『新教』への改題には、既に会内で『新教』の略称と呼ばれていたという背景があった。

る。『教育改造』と改題された1936（昭和11）年7月号にも、「過去一ケ年の間『新教』の誌名のもとに會員諸氏の教育宗教革正の寶庫としてまみゑてゐた本誌も、本月號より『教育改造』てふ時勢順應の名に棹さして活動することゝなつた」⁽¹⁶⁾と書かれている。

しかし、改題された『教育改造』がいつまで続いたかは明らかでない。しかし、以下の点から考えて『教育改造』は、8月号以降は発行されていないと筆者は考える。

第一に、1936（昭和11）年6月6日に、それまで編輯主任であつた渋谷に代わり高地虎雄がその後任に決つた⁽¹⁷⁾。高地は長野県会赤化教員の一人で、拘置後同県の小学校教員であつた創価教育学会員の紹介で同年3月に入会している⁽¹⁸⁾。高地の証言によれば、「ある日、矢島と小林が訪ねてきた。二人の勧めで牧口会長にあつた。彼の希望で『創価教育』の編輯主任になり、牧口の著述の手伝いをする事になった」⁽¹⁹⁾とある。

『新教』の改題にあたっては、その候補として、『教育改造』と『創価教育』が挙げがたが、牧口の『創価教育』と言ふも時期尚早の嫌ひがあります。然し今他に適當の誌名が考へられませんかから一應教育改造として、將來適當の誌名が考へられた時は何時でも改題するとの條件付可決にしては如何ですか⁽²⁰⁾との意見で『教育改造』と決つたという経緯がある。ところが、高知の証言では、『創価教育』の方を覚えていて、『教育改造』の編輯主任になつたはずの彼から『教育改造』の誌名が出てこない。

さらに、編輯主任になつた後について、「昭和十一年夏、富士の大石寺で創価教育学会の講習会が開かれ、全国から数十人参加した。私も講師で参加した。ここで、創価教育学会の第一回全国大会が開かれた。しかし、私の心は既に学会を離れていた。この大会後、私は故郷へ歸つた⁽²¹⁾」と述べている。高地は、1936（昭和11）年6月に『教育改造』の編輯主任として誌面に発表されたあと、わずか2ヵ月後の8月に辞めている。

高地が、「私の心は既に学会を離れていた」と表現した出来事は、同年夏の講習会前に起きたと考えられる。戸田が『聖教新聞』に連載した「人間革命」⁽²²⁾の記述を要約すると、「矢代と渋谷、高地、土岐、小林が秋月左都夫（当時、創価教育学会顧問）に直接働きかけて、教育の研究所という名目で私塾を作りその経営に当ろうとした。それを知つた戸田は、激怒し厳しくしかつた。この事件以降、矢代は牧口門下を離れることになつた」というのである。

渋谷も編輯から離れ、後任に決まつた高地も帰郷した。さらに、同じ頃には、理事である山田

⁽¹⁵⁾ 『創価教育』第4号（創価教育研究所 2011年）、276頁。

⁽¹⁶⁾ 『教育改造』第6巻第7号（創価教育学会 1936年）、110-110頁。

⁽¹⁷⁾ 同上、152頁。

⁽¹⁸⁾ 高地虎雄「長野縣教育者の創價教育學の欲求」（『新教』第6巻第6号、創価教育学会、1936年）、51頁。

⁽¹⁹⁾ 信濃毎日新聞社編『信州昭和史の空白』（信濃毎日新聞社 平成5年）、214頁。

⁽²⁰⁾ 前出『教育改造』、112頁。

⁽²¹⁾ 同上。

⁽²²⁾ 「人間革命 62」では、「矢代、渋谷、高知、土岐、小林」となっている。「矢代」とあるのは、赤化教員グループである「矢島」の可能性が高いのではないかと考える（前頁、創価教育学会の体制参照）。

高正も学会から離れたと考えられる⁽²³⁾。多くの人材を一旦に失った創価教育学会は、月刊誌『教育改造』の発行を継続できたであろうか。1837（昭和12）年1月、創価教育学会は新たな陣容で創立7周年を迎えることになる⁽²⁴⁾。

『新教』・『教育改造』が発行されていた1936（昭和11）年6月頃の創価教育学会の会員名簿は、『新教』第6巻第5号、148－149ページと『教育改造』第6巻第7号、153ページに掲載されている。それによれば、創価教育研究所の役員・スタッフが10名、東京の研究員・正会員35名、地方の会員25名である。顧問12名、特別賛助会員15名を合わせても97名である。

創価教育の実践記録として

次に、『新教』・『教育改造』の、「創価教育学に基く実践証明報文」等には、創価教育学に賛同した青年教育者達による創価教育学の各教科における取り組みが紹介されている。これらは、牧口の直接の指導のもとで行われていたものである。この実践記録の研究は、今後の大きな課題といえる。その一助として、本稿では、2.『新教』・『教育改造』執筆一覧」を掲載した。

学制改革論と創価教育の学校の構想

最後に、1930（昭和5）年11月の『創価教育学』の発表から1939（昭和14）年5月に牧口が創価教育の学校の構想を語るまでの思索の過程を追うためには、当時盛んに論じられた学制改革論に着目する必要がある。これについては牧口も積極的に発言をしており、『新教』掲載の各論文とともに、以下に目を通す必要がある。

「師範教育の根本革新」⁽²⁵⁾

1934（昭和9）年の国策倶楽部での講演

「師範教育内容批判—文部省師範教育改善案の批判—」

『帝国教育』1936（昭和11）年4月号掲載の論文

⁽²³⁾ 1937（昭和12）年1月27日、秋月左都夫を招き品川玄海で行った懇親会の写真と寄せ書きに山田高正と矢島周平の名前は無い。この時の参加者が書いた寄せ書きに、戸田は「多キモ人少キモ人 城外」と書いている（創価教育研究所所蔵の画像資料による）。また、戸田が山田の共著で出版した『推理式読方指導』シリーズ4冊も、1937（昭和12）年4月頃には『推理式指導読方』と題名を改め、戸田の単著に改版されている。

⁽²⁴⁾ 上記の玄海の懇親会参加者は以下の通り。秋月左都夫、田中省三、稲葉伊之助、稲葉浅次郎（伊之助の長男）、牧口常三郎、戸田城外、渡辺力、有村（寺坂）洋三、木村光雄、三ッ谷孝、木村栄、林幸四郎、木下恵市（鹿次）、有村勝次（洋三の弟）。田中省三と稲葉伊之助は、特別賛助会員（『新教』第6巻第5号、148頁）。有村、木下は、九州八女郡福島町出身。有村洋三、木下鹿次と、後に牧口の写真を撮影することになる金川末之は、同町の福島小学校の1914（大正3）年3月卒業の同級生であり、田中（木下）國次も同小学校の1911（明治44）年3月卒業生である。創価教育学会が九州に伸びていく萌芽をこの写真に見ることができる。

⁽²⁵⁾ 1934年6月に牧口が国策倶楽部例会で行った講演「師範教育の根本革新」は、国策叢書第五輯『経国論策七大綱』（国策倶楽部 1934年）、24頁以降に収録されている。さらに『新教材集録』第4巻第10号にも再録されている。後者は、拙稿「『新教材集録』掲載の牧口常三郎の論文」（『創価教育』第1号、創価教育研究所、2008年）の187頁に翻刻を掲載している。

『教育国策の根幹的六問題』

1937（昭和12）年のパンフレット

更に、『新教』第6巻第4号以降の以下の巻頭言には執筆者が記されていないが、学制改革に関する創価教育学会の主張である。

第4号巻頭言「平生新文相の所謂『精神教育』の内容及方法は如何」

第5号巻頭言「平生文相に文教刷新の希望」

第6号巻頭言「『庶政一新』は教育宗教を革命せずして出来るか」

第7号巻頭言「学制改革案に対する平生文相の意気」

当然これらは牧口の意に則して書かれているが、牧口自身が書いた可能性も否定できない。なぜなら、今まで述べたように、『新教』の編輯者達は牧口と出会って約1年の元赤化教員であり、牧口の意を十分に汲んだ巻頭言を書けるまでに至っていないのではないかと思われるからである。第4号以降の巻頭言の全文は、「3.『新教』・『教育改造』の無記名の巻頭言」で紹介する。

索引作成にあたり、第6巻第1号、第3号は、創価教育研究所所蔵の元版に基づいた。それ以外は、各元版のコピーによる。そのうち、『教育改造』第6巻第7号の150—151頁のコピーは欠落している。第6巻第2号、第5号は、宮城県の星潔⁽²⁶⁾の旧蔵である。最後に、本索引は増田妙子の助力を得て作成したことを付記させていただく。

1. 『新教』・『教育改造』巻号別索引

凡 例

- 一、論文記事等の題名および著者名は、目次の表記ではなく本文中の論文記事等の表記により作成した。
- 一、原文は、主に縦書きであるが、横書きに直した。
- 一、この時期は、新字体と旧字体が混然と使われている。本文の表記により記載したが、旧字体で記載できない漢字については、新字体に改めた。
- 一、複数字分の繰り返しを示すおどり字は、ゝゝ、或いはゝゞと字数分表記した。
- 一、誤字、誤植、誤記と考えられる個所には（ママ）と表記した。
- 一、「始頁」欄には、論文記事等の最初のページを記載した。
- 一、「終頁」欄には、論文記事等の最後のページを記載した。本文が別のページに続いている場合は、そのページ数を〔 〕に入れて記載した。
- 一、「内容、タイトル」欄には、論文記事等の題名を記載した。なお、目次に題名が掲載されていないものについては、題名をイタリック体で記載した。

⁽²⁶⁾ 当時、仙台市内の片平丁尋常小学校の教員であった。

一、「著者」欄は、論文記事等の表記に従って作成した。なお、論文記事等は無記名だが、目次には著者名が記されている場合はこれを記載した。

一、「特集・連載」欄は、論文記事等のまとまりを表記した。なお、論文記事等には記されていないが、目次にそれが記載されている場合はこれを記載した。

一、「備考」欄には、目次の論文記事等の題名と著者名が、本文中の表記と異なる場合はその差異を、目次のページ数が誤っている場合はその旨を記載した。

一、各巻号の最初に、誌名・巻号と発行年月日を記載した。巻号の表示はアラビア数字に統一した。

『新教』第5巻第12号別冊

始頁	終頁	特集・連載	内容・タイトル	著者	備考
表紙	表紙		赤化青年の完全轉向は如何にして可能なるか	創價教育學會	
表紙裏	表紙裏				
1	1		教育改造と宗教革命		ページ上部に「青年教育者の使命」と記載
2	7		赤化青年の完全轉向は如何にして可能なるか 全國數萬の赤化青年轉向指導のために	牧口常三郎	
8	8		主張	創價教育學會	
裏表紙裏	裏表紙裏				
裏表紙	裏表紙				

『新教』第6巻第1号 昭和11年1月15日

始頁	終頁	特集・連載	内容・タイトル	著者	備考
表紙	表紙				「新年號」と記載
表紙裏	表紙裏		広告: 牧口常三郎先生著「教育方法論」他4冊、及び好評參考書選(戸田城外先生著「推理式指導算術」他5冊)	日本小學館	
前付1	前付1		新教の使命、主張、本誌の陣容	創價教育學會	
前付2	前付2		目次		
前付3	前付3		目次		
前付4	前付4		広告: 増補改訂第54版發刊 戸田城外著「指導算術」	日本小學館	
1	1	巻頭言	教育宗教革命	牧口常三郎	目次では、「教育・宗教革命」と記載
2	3		教育宗教革命の提唱	牧口常三郎	目次では、「教育・宗教革命の提唱」と記載
3	4		教學刷新評議會に望む	池岡直孝	
5	5		長谷川如是閑氏の「教育刷新の動因」に就いて	高田規一郎	
6	9		古典精神の涵養	名取堯	目次では、5ページと記載
10	12	創價教育學に基づく實踐證明報文	全國に卒先小學校長登用試験論の實施の成績	岡田文秀	目次では、「全國に卒先小學校長登用試験の實施成績」と記載

13	22	創価教育學に基づく實踐證明報 文	讀方教育の實踐原理としての「讀 み」の對象と「讀方教育」の對象 —田中豐太郎氏の「讀方教育の實 踐原理」を讀みて—	吉田義則	目次では、「田中豐太郎氏」と記載
22	22		広告:山川アスピリン	三木商店醫藥部	
23	23	創価教育學に基づく實踐證明報 文	東京女子高等師範學校附屬小學校 の教育改革	渡邊春夫	目次では、「東京女子高師附屬小學校 の教育改革」、著者名を「渡邊春男」と 記載
23	23		新刊紹介 地域中心としての學校 施設		
24	26	インチキ宗教撲滅輿論	インチキ宗教を撲滅せよ	木崎清二郎	
27	27	インチキ宗教撲滅輿論	三木清氏の「日本文化の方向」に就 いて	小野新吾	
28	28	インチキ宗教撲滅輿論	淺野研眞氏の宗教批判を生かせ	土田勝	目次では、「淺野研眞氏の『宗教批判』 を生かせ」と記載
29	29	インチキ宗教撲滅輿論	松田解子氏に訊く	XYZ	
30	31	インチキ宗教撲滅輿論	邪教取締に就いて	見玉音吉	目次では、「邪教取締に就いて」と記載
31	31		広告:山川アスピリン	三木商店醫藥部	
32	33	インチキ宗教撲滅輿論	長谷川如是閑氏の宗教の變質に就 いて	山中芳男	目次では、「長谷川如是閑氏の『宗教の 變質』に就いて」と記載
32	32		広告:独逸ホーナーアコーディオン 及ピアノアコーディオン	十字屋	
33	33		広告:開明墨汁	田口商會	
34	34	宗教比較講座(第一講)	今日の問題	堀米泰榮	
35	35	教育・宗教時評	「北方性の教育」の教訓	巷三平	
35	36	教育・宗教時評	教權確立の問題と創価教育學會	小野生	
36	36	教育・宗教時評	教育者を混迷に導く形象理論	矢島生	
36	36		広告:ビクター蓄音器	十字屋	
37	38	教育 新聞雜誌文集 紹介批評	「綴方生活」新年號		目次では、「教育新聞雜誌・文集紹介批 判」と記載
38	38	教育 新聞雜誌文集 紹介批評	「教育女性」十二月號		
38	38	教育 新聞雜誌文集 紹介批評	教育春秋	湊谷生	
38	38	教育 新聞雜誌文集 紹介批評	真理	三平	
38	39	教育 新聞雜誌文集 紹介批評	教育週報	巷三平	
39	39	教育 新聞雜誌文集 紹介批評	國民教育週報		
39	39		新刊紹介 松田解子著「辛抱づよい 者へ」	S 生	
40	43		南洋群島の自然と人生	小原景次	目次では、「南洋事情」と記載
44	44		広告:戸田城外、山田高正共著「推 理式讀方指導 模範解答附」	日本小學館	
45	48	教育實踐報告	冷水害と教育	川又長	
48	49	教育實踐報告	教育の出発點	桑野春彦	
49	55	教育實踐報告	町の子供、村の子供	川瀬和夫	目次では、「町の子供・村の子供」と記 載
55	55		告		別刷『赤化青年の完全轉向は如何にし て可能なるか』の頒布について
55	57	教育實踐報告	政治教育に就いて	大内康弘	
57	57		よきをとりあしきをすてよ!	編者	
45	45	兒童新聞資料 —TOAK「コドモ新聞」抜粋—	國勢調査であらましわかつた大阪 市ほか三市の人數		目次では、「兒童新聞」と記載
45	46	兒童新聞資料 —TOAK「コドモ新聞」抜粋—	高さ二十二メートルの大佛を造る		

『新教』・『教育改造』索引

46	46	児童新聞資料 ーTOAK「コドモ／新聞」抜粋ー	今度はふえて困るオットセイ		
46	47	児童新聞資料 ーTOAK「コドモ／新聞」抜粋ー	日本一の大きな『仁王さま』		
47	48	児童新聞資料 ーTOAK「コドモ／新聞」抜粋ー	軽気球に乗って空を上へへへ富士山の六倍まで昇る		
48	49	児童新聞資料 ーTOAK「コドモ／新聞」抜粋ー	『高い』名所が三つある小海線と四國を貫いた土讃線		
49	49	児童新聞資料 ーTOAK「コドモ／新聞」抜粋ー	お化けのやうなさつまいも		
49	51	児童新聞資料 ーTOAK「コドモ／新聞」抜粋ー	新しい『フイリツピン』聯邦が『いよゝゝ』生れた		
51	51	児童新聞資料 ーTOAK「コドモ／新聞」抜粋ー	小学六年生の少女が来年のオリンピック氷上競技へ		「オリンピック」は、「オリンピック」の誤植
51	51	児童新聞資料 ーTOAK「コドモ／新聞」抜粋ー	大阪にある『ネツミ』の家		
52	52	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	生活改善で二萬圓を節約した		目次では、「産業新教材」と記載
52	53	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	村全體消費組合の状況		
53	53	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	林産物と林産工製品を海外に紹介		
53	54	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	副業に適したキハダの木の植栽		
54	54	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	産業に航空機の應用		
54	55	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	人造バター工業の統制		
55	56	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	九年度の生産費調査		
56	56	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	竹林の藪巻講習會		
56	57	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	神奈川縣三保村の青年道場		
57	57	産業新教材 ーJOAK「産業ニュース」抜粋ー	越前製紙業の發展		
58	59	創價教育學講座(第一講)		牧口常三郎	
60	60		宗教オリンピック 宗教革命は可能なるか 宗教界の喧嘩は何故惡いか		目次では、「宗教オリンピック」と記載
61	69		轉向教師らのゆくへ 中村新太郎氏の「ダンス」讀後感	渡谷筍吉	
69	69		原稿募集		
70	72	教育者煩悶相談	若い教育者の嫁取り相談に應じて	牧口常三郎	目次では、「教育者煩悶相談」とのみ記載
72	72		法華經の功德と法罰		
73	73	教材寶庫 最近變動の重要教材	最近變動の重要教材選擇の基準、目次	編輯部	目次では、「教材寶庫(最近變動の重要教材)」と記載
74	74	教材寶庫 最近變動の重要教材 關係教科 修身科	第二親王殿下の御命名	編輯部	
74	74	教材寶庫 最近變動の重要教材 關係教科 修身科	新宮家御創立	編輯部	
74	75	教材寶庫 最近變動の重要教材 關係教科 國語科	美談『給税』を讀本巻九へ	編輯部	

75	75	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	明年度豫算概算	編輯部	
75	75	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	各省新規事業	編輯部	
76	77	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	昭和十 國勢調査の結果	編輯部	
77	78	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	地盤沈下の新研究	編輯部	
78	78	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	關門海底トンネル門司線に決定	編輯部	
78	78	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	水の東京實現へ	編輯部	
78	78	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	日本一高原展望車小海線開通	編輯部	
78	79	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	『地下の空港』出現	編輯部	
79	79	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	滿洲事變の戦死者	編輯部	
79	79	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	昭和十一年度聯合艦隊及第三艦隊 の編成	編輯部	
79	80	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	軍縮會議各國主張骨子	編輯部	
80	80	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	伊工戦争の落着	編輯部	
80	82	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	各國の海軍現勢	編輯部	
82	83	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	本年度公定米價	編輯部	
83	85	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	我が國の水産業近況	編輯部	
85	86	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	我國石油需給の近狀	編輯部	
86	86	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	我國雜品輸出の繁盛	編輯部	
86	87	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 地理科	列國及我國の船舶出入	編輯部	
87	87	教材寶庫 最近變動の重要教材 関係教科 理科	テレビ劇場の初登場	編輯部	
88	88	海外教育ニュース	海外教育ニュースの目次		出典は、London Times と記載
88	88	海外教育ニュース	支那初等教育の現況	編輯部 (抄譯)	
88	89	海外教育ニュース	ソ聯學校教育の急轉換—再び革命 前の教育法に歸る—	編輯部 (抄譯)	
89	89	海外教育ニュース	獨逸宗教界の危機	編輯部 (抄譯)	
89	89	海外教育ニュース	無稽青少年に對する新施設	編輯部 (抄譯)	
90	91		創価教育學會の活動	矢島周平	
92	94	教員文藝	—創作—吊慰	瀧哲夫	目次では、「吊慰」と記載
95	95	教員文藝 新教歌壇	結婚明暗	三井和	
95	95	教員文藝 新教歌壇	舊作 海邊抄	土岐雅美	
95	95	教員文藝 新教歌壇	梵鐘	瀧美厚之	
95	95	教員文藝 新教歌壇	窓の空	流谷菊吉	

『新教』・『教育改造』索引

96	96		編輯後記		
96	96		賀正 丙子元旦		『創價教育學會』役員7名の肩書き・氏名を記載
96	96		奥付		
裏表紙裏	裏表紙裏		広告:「株券公債御持ちの方々に!」	村上證券取扱事務所	
裏表紙	裏表紙				

『新教』第6巻第2号 昭和11年2月15日

始頁	終頁	特集・連載	内容・タイトル	著者	備考
表紙	表紙				「二月號」と記載
表紙裏	表紙裏		広告:牧口常三郎先生著「教育方法論」他4冊、及び好評参考書選(戸田城外先生著「推理式指導算術」他5冊)	日本小學館	
前付1	前付1		広告:増補改訂第54版發刊 戸田城外著「指導算術」	日本小學館	
前付2	前付2		目次	日本小學館	
前付3	前付3		目次	日本小學館	
前付4	前付4		広告:戸田城外、山田高正共著「推理式讀方指導 模範解答附」	日本小學館	
1	2	巻頭言	國體明徴と宗教革命	牧口常三郎	
2	3		學制系統の根本的改革的先決問題如何	牧口常三郎	
4	6		「教」と「育」に就いて — 中華民國における新教育方針 —	村上貞吉	
7	7	前號實踐論文批判	川又長氏の「冷水書と教育」	小野	目次では、「前號實踐報告欄掲載論文批判」、17ページと記載
7	7	前號實踐論文批判	大内康弘氏の「政治教育に就いて」をよむ	矢島	
7	7	前號實踐論文批判	桑野晴彦氏の「教育の出発點」に就て	小野	
7	7	前號實踐論文批判	川瀬和夫氏の「町の子供・村の子供」に就て	巷生	
8	9	創價教育學に基く實踐證明報文	教育技術と繪畫藝術 横山大觀畫伯藝術談の一節	菊池正大	目次では、「教育技術と繪畫技術」と記載
9	10	創價教育學に基く實踐證明報文	神詣引卒教育者へ警告	小林清	目次では、「神詣引卒教育者に警告」と記載
10	11	創價教育學に基く實踐證明報文	試験地獄救済の一対策	土峰雅美	目次では、著者名に「土岐雅美」と記載
11	15	創價教育學に基く實踐證明報文	神奈川女子師範附屬小學校訪問記 全國小學校教師諸君の考慮を促す	澁谷荀吉	
16	24	インチキ宗教の排撃並既成宗教の價值批判	邪教的デマゴグ絶滅論	櫻井三之助	
25	25		原稿募集		
25	25		広告:山川アスピリン	三木商店醫藥部	
26	26	教育・宗教時評	教育・宗教時評の目次		
26	26	教育・宗教時評	盲目的生活 靴下の穴	牧口	目次では、副題省略
26	27	教育・宗教時評	喫茶ガール・女中・女子教育	澁谷	
27	28	教育・宗教時評	個性教育は教育ではあり得ない — 先生が片端者をつくる話 —	矢島	目次では、副題省略
28	28	教育・宗教時評	ニイチエと邪教と (讀賣壁評論)より	矢島	目次では、「ニイチエと邪教と」と記載

28	29	教育・宗教時評	邪教撲滅策(朝日鑑等欄より)	矢島	目次では、「邪教撲滅論」と記載
29	29	教育・宗教時評	個性教育について	澁谷	目次では、「再び個性教育について」と記載
29	30	教育・宗教時評	現代の娘かたぎ	牧口	目次では、「現代の娘氣質」と記載
30	30	教育・宗教時評	あだなと管理	大内康弘	
30	31	教育・宗教時評	新興宗教を眼く(現代二月號)	櫻井三之助	目次では、「新興宗教をのぞく」と記載
31	31	教育・宗教時評	新妻に餓ける言葉	牧口	目次では、「新妻に餓える言葉」と記載
32	33	宗教比較講座(第二講)	教判に就いて	堀米泰榮	
33	33		大覺 般若御内室御返事(抜粋)		「大覺 郎」は、「大學三郎」の誤植
34	35	國史・日本精神の宗教的再認識	佛教傳來と聖德太子の位置 — 法華經と聖德太子 —	渡邊力	目次では、副題省略
36	37	國史・日本精神の宗教的再認識	大橋公と法華經	三矢幸	
37	37		広告:山川アスピリン	三木商店醫藥部	
38	40		委任統治南洋の人種及風俗	小原景次	目次では、「南洋事情」と記載
40	40		広告:ビクター蓄音器	十字屋	
41	41		綜合科學協會に就いて	土岐生	
45	41		理科教育講座-(1)-	篠原雄	目次では、「理科教育講座(第一講)」と記載。横書きのため、始頁と終頁が逆
46	46		獨創性の教育		創價教育學體系第一卷 故新渡邊稻造氏序文の一節
52	46		高等科算術教材解説	木村榮	横書きのため、始頁と終頁が逆
53	53	児童新聞資料 ~JOAK「コドモ新聞」抜粋~	煙の中から金、銀、銅をとる		目次では、「児童新聞」と記載
53	53	児童新聞資料 ~JOAK「コドモ新聞」抜粋~	樺太とシベリヤを地續きにする開闢 海峡の大工事		
53	53	児童新聞資料 ~JOAK「コドモ新聞」抜粋~	シャムのお國を走る日本製蒸氣機関車		
53	53	児童新聞資料 ~JOAK「コドモ新聞」抜粋~	鯨とりの大船隊が兩極の海へ		
53	53[71]	児童新聞資料 ~JOAK「コドモ新聞」抜粋~	年中土地深くまで凍りつく廣いムロ シヤの凍原帯		
54	54	海外教育事情	海外教育事情の目次		出典は、 London Times Education Supplement と 記載。Supplement は、Supplement の誤植
54	55	海外教育事情	英國教育界の會議シーズン — 検討された主要題目 —	澁谷國忠 (抄譯)	内容は、「サツドラ一腳の試験制度検討」、「大學の生産過剰問題」、「職業婦人と結婚問題」、「教育と新聞紙」
55	55	海外教育事情	教會に於ける婦人の地位 — 助祭にはなれるが、牧師にはなれぬ —	澁谷國忠 (抄譯)	
55	55	海外教育事情	獨逸宗教闘争の進展 — 宗教相の陰謀/パウロさる —	澁谷國忠 (抄譯)	
56	57	教壇の友に送る手紙	政治改革の前提としての教育革命	矢島周平	目次では、「社會改革の前提としての教育革命(C君へ)」と記載
58	61	教壇の友に送る手紙	三つの危機・クラスの問題・其他	澁谷菊吉	文末に、「後記-山下徳治氏の批評の批判-」を掲載
62	63	教育 新聞雑誌文集 紹介批評	國民教育新聞 — 一月一日號批判つき —	澁谷菊吉	目次では、「教育・宗教・新聞雑誌紹介批判」、「國民教育新聞」と記載、目次にある「實踐國語教育」は、記事がない
63	64	教育 新聞雑誌文集 紹介批評	セルバン 二月號	澁谷菊吉	目次では、「セルバン」と記載
64	64	教育 新聞雑誌文集 紹介批評	改造 二月號	澁谷菊吉	目次では、「改造」と記載
64	64	教育 新聞雑誌文集 紹介批評	中央公論 二月號	澁谷菊吉	目次では、「中央公論」と記載

『新教』・『教育改造』索引

65	65	教育 新聞雑誌文集 紹介批評	帝國大學新聞(一月二十日號)	渋谷菊吉	目次では、「帝國大學新聞」と記載
65	66	教育 新聞雑誌文集 紹介批評	國民教育新聞(一月二十七日版)	渋谷菊吉	目次では、「國民教育新聞」と記載
66	66		広告:独逸ホーナーアコーディオン 及ピアノアコーディオン	十字屋	
67	68	教育者煩悶相談	教育者の戀愛の問題	牧口常三郎	
68	68		広告:開明墨汁	田口商會	
69	69	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	冷害に強い稲が見出さる		目次では、「産業新教材」と記載
69	69	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	琉球漆器の飛躍		
69	69	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	昭和十年度の日本茶輸出概況		
69	69	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	長野縣で木炭自動車の縣税半減		
69	70	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	新しい驅蟲剤が発見		
70	70	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	オリーブ油の需要と栽培		
70	70	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	昭和十年日英輸出綿布比較		
70	70	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	電球工業の近況		
71	71	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	熔岩を流す噴火山を飛行機十數臺 が空中襲撃する		
71	71	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	内地から臺灣まで一日で行ける空 の旅を開始		
71	71	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	出来上つたドイツの大飛行船		
71	71	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	鯨子の沖へオツトセイの大群		
71	71	産業新教材 JOAK「産業ニュース」抜粋	春の日本を指してくる外國のお客が 今年は殊に多い		
72	72	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材	最近變動の重要教材選擇の基準、 教材寶庫目次	編輯部	目次では、「教材寶庫(其の一)最近變 動重要教材」と記載
73	73	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 修身科	英國皇帝陛下崩御	編輯部	
73	74	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 修身科	忍苦五年の佛畫完成	編輯部	
74	74	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 修身科	總選挙二月廿日	編輯部	
74	77	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 修身科	軍檢會議の回顧	編輯部	
77	77	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	郵便貯金卅五億二百萬圓	編輯部	
77	77	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	滿洲國・冀東政府同盟的修交文	編輯部	
77	78	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	海外放送の躍進	編輯部	
78	78	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	自動車二百萬台輸出	編輯部	
78	78	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	稅收入の激増	編輯部	
78	79	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	人絹織物輸出の激増	編輯部	

79	79	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 関係教科 地理科	内鮮を繋ぐ快速船	編集部	
79	79	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 関係教科 地理科	國際無線網	編集部	
80	80	話の森 教材寶庫(二)	話の森 教材寶庫(二)の目次	編集部	目次では、「話の森 教材寶庫(其の二)」と記載
80	80	話の森 教材寶庫(二)	氣がきいて聞のぬけた話 大小價 値觀の不足	編集部	
80	81	話の森 教材寶庫(二)	講壇を去る二博士	編集部	
81	81	話の森 教材寶庫(二)	寄生蟲の撲滅	編集部	
81	81	話の森 教材寶庫(二)	大陸移動測定から歸る	編集部	
81	81	話の森 教材寶庫(二)	多産女王一年間に三百五十九の卵	編集部	
81	82	話の森 教材寶庫(二)	兩勇士の挿繪完成	編集部	
82	82	話の森 教材寶庫(二)	關ヶ原に大石碑	編集部	
82	82	話の森 教材寶庫(二)	盲人の光の家	編集部	
82	83	話の森 教材寶庫(二)	思想犯保護觀察制度	編集部	
83	83	話の森 教材寶庫(二)	齒にも年輪	編集部	
83	83	話の森 教材寶庫(二)	地球の密度	編集部	
83	83	話の森 教材寶庫(二)	風の起源	編集部	
84	84	教育界狀報	教育界狀報の目次	編集部	
84	84	教育界狀報	學制改革案成る	編集部	目次では、「最近教育界情報」と記載
84	84	教育界狀報	教室照明の研究	編集部	
84	85	教育界狀報	東京に生れる五十校	編集部	
85	85	教育界狀報	弱視兒童の氾濫	編集部	
85	85	教育界狀報	東京市教育 ^(イ) 局豫算案	編集部	
85	85	教育界狀報	中學卒業生を職業教育	編集部	
85	85	教育界狀報	教員の診療機關	編集部	
86	86		創價教育學會の消息	編集部	目次では、「創價教育學界消息」と記載
86	88		創價教育學研究所に於ける宗教革命體驗錄		所感 矢島周平、寸感 三井章敬、所感 桂御門敏郎、感想 土岐生、山内正徳、河野元伸の6題。
89	89		會員便より		目次では、「會員だより」と記載
89	89		『吾讀者の爲に』		購讀者の誤植。目次では、「古書取次販賣について」と記載
89	89		國際文化振興會—昭和十年度事業		
90	90	新敎歌壇	かなしき教師 一獨房吟抄—	澁谷荀吉	目次では、「かなしき教師」と記載
90	90	新敎歌壇	沿道(一)	土岐雅美	目次では、「沿道」と記載
90	90	新敎歌壇	訓導の歌	大内康弘	
90	90	新敎歌壇	新春	丹治半三郎	
90	90	新敎歌壇	結城行	丘村比呂人	
90	90	新敎歌壇	望郷譜	渡邊力	
91	91	新敎歌壇	選後寸感	三井和	「新年號短評」も付記
92	92		編輯後記	澁谷	
92	92		奥付		
裏表紙裏	裏表紙裏		広告:「株券公債御持ちの方々に!!!」	村上證券取扱事務 所	
裏表紙	裏表紙				

『新教』第6巻第3号 昭和11年3月15日

始頁	終頁	特集・連載	内容・タイトル	著者	備考
表紙	表紙				「三月號」と記載
表紙裏	表紙裏		広告:牧口常三郎先生著「教育方法論」他4冊、及び好評参考書選(戸田城外先生著「推理式指導算術」他5冊)	日本小學館	
前付1	前付1		広告:増補改訂第54版發刊 戸田城外著「指導算術」	日本小學館	
前付2	前付2		目次		
前付3	前付3		目次		
前付4	前付4		月刊雜誌新教の使命、主張、本誌の陣容	創價教育學會	
1	1	巻頭言	宗教的情操の涵養法如何	牧口常三郎	目次では、「宗教情操の涵養法如何」と記載
2	4		教育革新を旨とする教育者に與ふ—創價教育學會の前途を想ひて—	秋月左都夫	文末に「後記」として、本稿は秋月の談話を筆記してまとめた「と 漁谷生」が書いている
5	12		『光臨縦横談』と教育宗教革命問題	牧口常三郎	
12	13		知識の貧困—宮田修氏の「信念なき學問の貧弱さ」を思ふ—	石澤泰治	目次では、副題省略
14	17		ニイチエ型とキリスト型	渡部政盛	
17	17		土語御書		
18	27	創價教育學に基く實踐證明報文	國語教育學習指導案の研究發表と實踐報告	創價教育學研究所發表 野々田健三氏實驗	目次では、「創價教育學研究所」とのみ記載
27	32	創價教育學に基く實踐證明報文	學藝會の問題	山中行雄	
32	32		原稿募集		
33	33	教育者煩悶相談	教育者の轉任の問題	牧口常三郎	目次では、「教育者煩悶相談 轉任の問題」と記載
33	33		創價教育學會パンフレット		「赤化青年の完全轉向は如何にして可能なるか」、「轉向教師等のゆくへ」を希望者に贈呈
34	37	インチキ宗教の排撃並に既成宗教の價值批判	邪教の發生に就いて—淺野研眞氏の「邪教撃滅のために」を読む—	漁谷荀吉	目次では、副題省略
38	39		宗教革命の實踐録	矢島周平	目次では、「宗教革命實踐録」と記載
39	39		広告:ビクター蓄音器	十字屋	
40	42	宗教比較講座(第三講)	教判について(つゞき)	堀米泰榮	目次では、「教判について(承前)」と記載
42	42		會員だより	宮崎縣 貴島氏	
43	44[42]	國史・日本精神の宗教的再認識	法華經と菅原道真	三ッ谷孝	
48	45		理科教育講座(2)	篠原雄	目次では、「理科教育講座(第二講)」と記載。横書きのため、始頁と終頁が逆
49	49		交換雜誌		實踐國語教育、生活學校、新聞語教育、日々の學習指導、ホーム・ユニオンの各三月號
53	49		高等科算術教材解説	木村榮	横書きのため、始頁と終頁が逆
54	54	海外教育事情	海外教育事情の目次		出典は、London Times Educational Supplement と記載。Supplement は、Supplement の誤植
54	55	海外教育事情	英國政府教育改造案の具體化—行政的手段に依る教育改造の詳細なる通譯發表さる—	漁谷國忠(抄譯)	

55	55	海外教育事情	獨乙に於ける兒童微夢制 —強制的ナチス化の進行—	澁谷國忠(抄譯)	
55	56	海外教育事情	低能兒教育の専門家養成 —ロンドン大學に新施設開始さる—	澁谷國忠(抄譯)	
56	56	海外教育事情	體育王國から何を學ぶか —丁林と瑞典の體育の近況—	澁谷國忠(抄譯)	
56	56	海外教育事情	地理科教授法の改善 —もつと面白く教へられぬか—	澁谷國忠(抄譯)	
57	57	海外教育事情	ソヴェトニ於けるシェクスピア —シェクスピア演劇の創造—	澁谷國忠(抄譯)	
57	57	海外教育事情	ニュース一束	澁谷國忠(抄譯)	
58	60	創価教育學講座(第二講)	教育の態度を論ず —指導態度と學習態度—	牧口常三郎	目次では、副題省略
61	63	教壇の友に送る手紙	妹N子に與へる返書—第一信—	渡邊力	目次では、「妹N子に與ふる—第一信—」と記載
63	63[57]	教壇の友に送る手紙	信の確立・其の他	小川清	
64	66		生活と文字	吉田義則	
67	67	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	最近變動の重要教材選擇の基準、 教材寶庫目次	編輯部	目次では、「教材寶庫[其の一]—最近 重要變動教材」と記載
68	68	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	昭和十年度日滿貿易	編輯部	
68	69	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	海外諸國の取引申込	編輯部	
69	69	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	淺間山の青伸び	編輯部	
69	69	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	最近の貿易状況	編輯部	
69	69	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	十年度米收穫高	編輯部	
69	70	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	地震豫知	編輯部	
70	70	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	世界の捕鯨争覇	編輯部	
70	70	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	東南洋一帯へ調査船	編輯部	
70	71	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	全國自動車台數	編輯部	
71	71	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	關門トンネル設計圖	編輯部	
71	71	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	十年度の産産額	編輯部	
71	72	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	日食觀測に國際科學陣	編輯部	
72	72	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	航海圖に新紀元	編輯部	
72	72	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	煉から工業油	編輯部	
72	73	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	直接製鐵法に成功	編輯部	
73	73	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	癌の治療に新研究	編輯部	
73	73	教材寶庫(一) 最近變動の重要 教材 關係教科 地理科	わが莖葉肥料消費	編輯部	
74	76	話の森 教材寶庫(二)	肅正選舉の結果	編輯部	目次では、「教材寶庫[其の二]—話の 森」と記載

76	77	話の森 教材寶庫(二)	宇宙線	編集部	
78	79	教育実践報告	課題は何か	山中行雄	
80	80	教育宗教時評	教育宗教時評の目次		
80	80	教育宗教時評	高給者追放問題	土岐雅美	
80	81	教育宗教時評	どうにもならぬ宗教教育	小林清	
81	81	教育宗教時評	歎きの轉向折紙	矢島周平	
81	81		広告:開明墨汁	田口商會	
82	82	教育界状報	教育界状報の目次		
82	82	教育界状報	聞く教育から見る教育へ	編集部	目次では、「最近教育界情報」と記載
82	82	教育界状報	学校の身体検査改正	編集部	
82	83	教育界状報	教學刷新評議會委員會	編集部	
82	83	教育界状報	新國定教科書	編集部	
83	83	教育界状報	少年保護會館	編集部	
83	83	教育界状報	新ローマ字誕生	編集部	
83	83	教育界状報	エスプラント語を正科に	編集部	
84	85		創價教育學會の消息	矢島周平	目次では、「創價教育學會消息」と記載
85	85		広告:拙造ホーナーアコーディオン 及ピアノアコーディオン	十字屋	
86	92	教員文藝	一創作一肉親	田中通	
93	93	教員文藝	一隨筆一彼と作品	酒井比呂志	
94	94	教員文藝 新教歌壇	遙心・冬一獨房吟抄一	渡谷菊吉	目次では、副題省略
94	94	教員文藝 新教歌壇	紫春抄	辻信一郎	
94	94	教員文藝 新教歌壇	峽の工事	土岐雅美	
94	94	教員文藝 新教歌壇	生きる者	藤岡喬一	
94	94	教員文藝 新教歌壇	薄氷・淺草	三井和	
95	95		代理部だより		
96	96		編輯後記	小林	
96	96		御願ひ		転居通知の依頼
96	96		奥付		
裏表紙裏	裏表紙裏		広告:戸田城外、山田高正共著「推 理式讀方指導 模範解答附」	日本小學館	
裏表紙	裏表紙				

『新教』第6巻第4号 昭和11年4月15日

始頁	終頁	特集・連載	内容・タイトル	著者	備考
表紙	表紙				「四月號」と記載
表紙裏	表紙裏		広告:川口白浦著「日本國史學發達 史」他3冊	健文社	
前付1	前付1		広告:創價教育學体系全十二卷 第五卷近刊 以下續刊	創價教育學會	
前付2	前付2		目次		
前付3	前付3		目次		
前付4	前付4		目次		
前付5	前付5		広告:増補改訂第64版發刊 戸田 城外著「指導算術」	日本小學館	
前付6	前付6		月刊雜誌新教の使命、主張、本誌 の陣容	創價教育學會	

1	1	巻頭言	平生新文相の所謂「精神教育」の内容及方法は如何		ページ上部に「新教」と記載
2	13		女性と歴史(上)	柳田國男	目次では、「女性と歴史」と記載
14	23		「光瑞縦横談」と教育・宗教革命(下)	牧口常三郎	目次では、「『光瑞縦横談』と教育宗教革命」と記載
24	35	創価教育学に基づく実践證明報文	郷土地理教育の実践研究発表 —郷土の商店分布と指導の実際—	有村陽三	目次では、「創価教育学に基づく実践證明報文」。「郷土地理教育の研究発表」と記載
35	41	創価教育学に基づく実践證明報文	創価教育學の綴方	下野友次郎	
42	43	創価教育学に基づく実践證明報文	實生活の婦人先覺階級よりの教育革命の要求 神近市子女史の『婦人と歴史の研究』	石澤泰治	目次では、副題省略
43	43	創価教育学に基づく実践證明報文	山本有三氏の純粹日本語使用論と創価教育學の國字改良案	土岐雅美	
44	44	創価教育学に基づく実践證明報文	教學刷新の中樞機關文敎院案有力化	菊池正大	
44	44		會員だより	湯田生	
45	49	創価教育學講座 (第三講)	教育態度論(續き)	牧口常三郎	目次では、「教導態度論(續き)」と記載 内容は、「二 無指導態度に陥った注入主義教授」
50	53		本門佛立講は何故間違つてゐるか	和田龍谷	
54	58		對宗教のはしがき	松田解子	
58	59		「讀實」社説の解決を要する神社問題	小林濟	目次では、「讀實社説の解決を要する神社問題」と記載
59	59		會員だより	鹿兒島縣 中島利平	
60	60		日天出でぬれば萬星の光跡形もなし		「松野殿後家尼御返事」の一節を掲載
61	63	理想最高の宗教とは何ぞや	善惡正邪の比較並に取捨選擇の標準如何	創価教育學會 教育・宗教革命研究會	目次では、「創価教育學會 教育宗教革命研究會」と記載
63	63		雜誌紹介		内容は、「新興宗教排撃號(特輯)(講壇三月號)」
64	64		日蓮大聖人 御申状		宿屋左衛門入道宛
65	69		最高の教義・無上の正宗	櫻井仁道	
69	69		大覺三郎殿御内室御返事(抜粋)		「大覺三郎」は、「大學三郎」の誤り。
70	77		宗教革命生活の實踐記録 創価教育學會宗教革命敎團報告	創価教育學會 宗教革命敎團	目次では、「宗教革命實踐記録」と記載
78	79	國史・日本精神の宗教的再認識	法華經と後醍醐天皇	三ッ谷孝	
80	83		知識階級の宗教に對する態度批判	矢島周平	
83	83		會員だより	渡利生	
84	88	宗教比較講座	敎判について(承前)	堀米泰榮	目次では、「宗教比較講座(第四講)」と記載
89	89	教育宗教時評	教育宗教時評の目次		
89	90	教育宗教時評	女學校の送別劇・舞踊會を見る—宗教を教育の上に!—	造谷	目次では、「教育・宗教時評 女學校の學藝會を見る」と記載。続きは 91 ページ、さらに、90 ページ 1 段に続き完結。
90	90	教育宗教時評	數の書き方	矢島	
90	90		論文紹介		「綴方生活」(四月號)所載の村山俊太郎著「新しい文學と綴方教育」と今井豊次郎著「文學の目標と綴の目標」を紹介
92	93	教育雜誌・批評紹介	教育・國語教育(四月號)		目次では、「教育雜誌・批評紹介—教育國語教育、生活學校、中央公論」と記載

93	93	教育雑誌・批評紹介	生活學校(三月號)	石澤	
93	94	教育雑誌・批評紹介	中央公論(三月號)	澁谷	
94	94		良書紹介 童話集		坪田謙治著「狐狩り」、根本楠郎著「仔猫の裁判」
94	94		広告:独逸ホーナーアコーディオン 及ピアノアコーディオン	十字屋	
95	101	教壇の友へ送る手紙	學窓から教壇へ飛躍する人々へ	澁谷菊吉	目次では、「教壇の友へ送る手紙」と記載
102	103	教育者煩悶相談	學校統制問題	牧口常三郎	目次では、「教育者煩悶相談」と記載
103	103		雑誌寸評	土岐生	「静岡詩壇」、「中部評論」を寸評
104	106	教育実践報告	理科指導の三段階 —「慣性」を取りて—	中野哲三	目次では、「理科教育の三段階」と記載
106	109	教育実践報告	四月高二の經營	大内康弘	目次では、「四月高二の學級經營」と記載
109	110	教育実践報告	課題は何か(承前) 一月號所載論文批判	山中行雄	目次では、「課題は何か(續き)」と記載
110	110			石川縣 小林生	題名なし。内容は、「會員だより」。
111	114	教育実践報告	學級の團體的精神	平井義朝	目次では、作者名が「平井義朝」と記載
114	115		「學級の團體的精神」に對する走り がき	石澤泰治	
115	115		會員だより	鹿兒島縣 森永隆義	
116	116	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一)	最近變動の重要教材選擇の基準、 目次	創價教育學研究所	目次では、「最近變動の重要教材(教材寶庫)」と記載
117	117	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係教科 修身	交換臺灣狀なし	創價教育學研究所	
117	118	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係教科 修身	尊徳翁の畫像	創價教育學研究所	
118	118	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係教科 國史	聖徳太子の「憲法」	創價教育學研究所	
118	118	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係教科 國史	英譯古事記の挿畫	創價教育學研究所	
119	119	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係教科 地理	昭和十年度砂礫消費量	創價教育學研究所	
119	120	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係教科 地理	琵琶湖貯水池化	創價教育學研究所	
120	120	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係教科 地理	大阪地震發動線 城崎から大淀貯 水池を貫く直線	創價教育學研究所	
120	120	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係無科 理科	國神ワン公保存	創價教育學研究所	「無科」は、「理科」の誤植
121	121	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係無科 理科	自動車のドア・エンジン —ボタン一つで開閉する—	創價教育學研究所	
121	121	最近變動の重要教材 教材寶庫 (一) 關係無科 理科	圓形ガソリン發明 —燃料界の發明—	創價教育學研究所	
122	122	教材としての最近の國際關係	教材としての最近の國際關係 世 界地圖、目次	創價教育學研究所	目次では、「時事問題を如何にして教材 化するか」と記載
123	123	教材としての最近の國際關係	佛・ソ相互條約成立す	創價教育學研究所	
123	125	教材としての最近の國際關係	ロカルノ條約破壞	創價教育學研究所	
125	125	教材としての最近の國際關係	伊埃匈三國協定成る	創價教育學研究所	
125	125	教材としての最近の國際關係	海峽再武裝	創價教育學研究所	
126	126	教材としての最近の國際關係	太平洋防備問題	創價教育學研究所	
126	127	教材としての最近の國際關係	グアム島に根據地	創價教育學研究所	
127	127	教材としての最近の國際關係	滿露國境問題	創價教育學研究所	

127	127		良書紹介(童話集)		千葉省三著「トテ馬車」、同著「葱坊主」、坪田譲治著「魔法」
127	127		広告:ギター ウクレレ	十字屋	
128	129		精密と煩悩	福井三郎	
130	134		文字の進化	吉田義則	
134	134		論文紹介		帝國教育四月號の牧口常三郎著「師範教育改善案の批判」
135	136		ウエルズ「生命の科學」を譯して	篠原雄	
136	136		広告:「ウエルズ生命の科學(改訂版)」	平凡社	
137	140		青木保氏の歐米視察談	編輯部	
140	140		會員だより	湯田生/N藤K生	
141	145	教員文藝	創作 神經衰弱者治療靈驗記	大平謙一	目次では、「神經衰弱者治療靈驗記」と記載
145	145				ラスキン、タゴールの言葉
146	146	教員文藝 新教歌壇	歸省	土岐雅美	目次では、「教員文藝 短歌」と記載
146	146	教員文藝 新教歌壇	山國の旅	山路小夜子	
146	147	教員文藝 新教歌壇	車前草	谷井靖治	目次では、著者名を「谷川靖治」と記載
147	147	教員文藝 新教歌壇	松澤村のうた	丘村比呂人	
147	147	教員文藝 新教歌壇	底冷え	三井和	
148	148	教育宗教時評	教育宗教時評の目次		
148	148	教育界情報	教育塔建設に御下賜金	編輯部	
148	148	教育界情報	栄養量不足の學校給食	編輯部	
148	149	教育界情報	童心を救へ	編輯部	
149	149	教育界情報	英語・數學の取扱ひ —山口懸女學校教育改革案—	編輯部	
150	151		創價教育學會消息	矢島	
151	151		原稿募集		
152	153		創價教育學會綱領	創價教育學會	
154	154		編輯後記	編輯部	
154	154		奥付		
裏表紙裏	裏表紙裏		広告:「平凡社家庭百科全書」	平凡社	
裏表紙	裏表紙				

『新教』第6巻第5号 昭和11年5月15日

始頁	終頁	特集・連載	内容・タイトル	著者	備考
表紙	表紙				「五月號」と記載
表紙裏	表紙裏		広告:名著選、川口白浦著「日本國史學發達史」他3冊	健文社	
前付1	前付1		広告:「世界歴史大系」「日本東洋西洋史籍解題」	平凡社	
前付2	前付2		目次		
前付3	前付3		目次		
前付4	前付4		目次		
前付5	前付5		広告:吉田義則著「辯證的日本精神への讀方教育」	厚生閣	
前付6	前付6		月刊雜誌新教の使命、主張、本誌の陣容	創價教育學會	
1	1	巻頭言	平生文相に文教刷新の希望		

2	3		宗教革命の可能と方法	創價教育學會 正法研究會	
4	12		女性と歴史(中)	柳田國男	目次では、「女性と歴史」と記載
13	23		科學と宗教との關係を論ず(上) 石原理學博士の「科學と宗教」を讀みて	牧口常三郎	21-23 ページに、「日蓮大聖人 開目鈔の一節」を掲載
24	29		教育に於ける權威の性質	名取堯	
30	38	創價教育学に基く實踐證明報文	國語と文字及漢字の考察	吉田義則	目次では、「創價教育学に基く實踐證明報文」と記載
38	43	創價教育学に基く實踐證明報文	東京市根岸尋常小學校 讀方研究發表＝學習指導の實際(上)	創價教育學研究所	目次では、「東京市根岸尋常小學校讀方研究發表－學習指導の實際」と記載
44	45	創價教育学に基く實踐證明報文	教師の師範たるべき人格とは是か 一歌人齋藤茂吉氏の歌談を讀みて	石澤泰治	目次では、副題省略
46	51	創價教育學講座(第四講)	教育態度論(續き)	牧口常三郎	内容は、「三、虚妄なる啓蒙主義と無策なる人格主義」、「四、諸種なる教育主義の比較検討」
52	52	理想最高の宗教とは何ぞや	選定の標準		
53	57	理想最高の宗教とは何ぞや	日蓮大聖人 乙御前御消息		目次では、「日蓮大聖人『乙御前御消息』」と記載
58	58	理想最高の宗教とは何ぞや	聖訓 日蓮大聖人「松野殿後家尼御返事」に云はく		目次では、「日蓮大聖人『松野殿後家尼御返事』」と記載
59	59	理想最高の宗教とは何ぞや	日興上人 御申狀		
60	62	理想最高の宗教とは何ぞや	最高の教義無上の正宗(續)	櫻井仁道	
63	71	宗教革命の實踐記録	赤化教員の完全轉向實證と其の論據	高地虎雄	目次では、「赤化教員完全轉向の實證と其の論據」と記載
71	71		創價教育學會パンフレット		『創價教育學體系梗概(創價教育學會)』、『赤化青年の完全轉向は如何にして可能なるか(牧口)』、『轉向教師らのゆくへ(滋谷)』の贈呈について
72	73	宗教革命の實踐記録	新に日蓮正宗を信奉せる者の感謝	福井三郎	
73	74	宗教革命の實踐記録	現證に就て	近村四郎	目次では、「現證について」と記載
74	74		一三二頁より續く		「132 頁より續く」とあるが、133 ページの続きが掲載
75	79	國史日本精神の宗教的再認識	徳川時代に於ける法難(上) 日蓮正宗 廣布山信盛寺史	教育・宗教革命研究會	目次では、「徳川時代に於ける法難－廣布山信盛寺史－」と記載
80	83	國史日本精神の宗教的再認識	法華經と神の觀念について	三ツ矢孝	
84	85	宗教比較講座	教判について(承前)	堀米泰榮	
85	85		正誤	矢島周平 小林清	四月號掲載の「日蓮大聖人 御申狀」の正誤、「日天出でぬれば萬星の光跡形もなし」は誤植が多かったので 58 ページに再掲の旨。
86	88	教育實踐報告	「君子不重則不威」を教育の實際より見る	鮫島利治	横書のため、返り点(レ点)は省略した。
89	92	教育實踐報告	高小算術教材扱ひ方の一二	木村榮	目次では、「高小算術教材取扱ひの一」と記載
93	97	教育實踐報告	彼女は如何なる書を愛讀したか(其の一) 一幼時から高女二年までの回想一	竹澤義夫	目次では、「彼女は如何なる書を愛讀したか」と記載
98	98	最近變動の重要教材 教材寶庫	最近變動の重要教材教材選擇の基準、目次	創價教育學研究所	
99	100	最近變動の重要教材 教材寶庫	輸出入累年比較表	創價教育學研究所	

100	102	最近變動の重要教材 教材寶庫	全國主要都市に於ける勞働實況統計	創價教育學研究所	
103	103	最近變動の重要教材 教材寶庫 修身科・國史科	天皇陛下第三十五回の御誕辰	創價教育學研究所	目次では、「天皇陛下第三十五回御誕辰」と記載。
103	103	最近變動の重要教材 教材寶庫 修身科・國史科	國號と元首の御稱呼 —四月十八日外務省公表—	創價教育學研究所	目次では、副題省略
103	104	最近變動の重要教材 教材寶庫 修身科・國史科	江戸城外濠史蹟に指定	創價教育學研究所	
104	105	最近變動の重要教材 教材寶庫 修身科・國史科	明治神宮繪畫館完成	創價教育學研究所	
105	107	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科(地理)	國勢調査結果 —内閣統計局發表—	創價教育學研究所	目次では、副題省略
107	107	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科(地理)	昭和十年本邦渡來外人數	創價教育學研究所	目次では、「昭和十年度本邦渡來外人數」と記載
108	114		宇宙の形と年齢	福井三郎	
114	119		男子の洋服に就て	山縣武夫	目次では、「男子の洋服について」と記載、119 ページに山縣氏の手紙を紹介(編者)
120	120	教育宗教時評	教育宗教時評の目的		
120	121	教育宗教時評	文教刷新の聲		目次では、「教育・宗教時評」と記載
121	123	教育宗教時評	男女教員風紀問題の対策		
124	128		教育改革とは何か	川又長	目次では、「教育革命とは何か」と記載
128	133[74]		心臓禮讃	伊藤操	
134	135[143]	教員文藝	日向の傳説 美々津の挿入團子	吉田義則	目次では、「傳説 美々津の挿入團子」と記載
136	136	教員文藝 新教歌壇	雨後	坂口貴敏	目次では、「教員文藝 短歌」と記載
136	137	教員文藝 新教歌壇	いつの日か	渥美厚	
137	137	教員文藝 新教歌壇	旅中點景	土岐雅美	
137	137	教員文藝 新教歌壇	早春	押見吉樹	
137	137	教員文藝 新教歌壇	握野の歌	丘村比呂人	
138	138	海外教育事情	海外教育事情の目次		出典は、The Times Educational Supplement からと記載。Supplement は、Supplement の誤植
138	142	海外教育事情	少年勞働と義務教育免除制	澁谷國忠(抄譯)	
142	142	海外教育事情	ナチスに追はれる學者の大群	澁谷國忠(抄譯)	
142	142	海外教育事情	就學兒童に牛乳を與へよ	澁谷國忠(抄譯)	
143	143		原稿募集		
144	144	教育界情報	教育界情報の目次		
144	144	教育界情報	文相の教育刷新の抱負	編輯部	
144	144	教育界情報	肅選運動の公民教育化	編輯部	
144	145	教育界情報	學位令違反—規定期間に論文出版せず—	編輯部	
145	145	教育界情報	養老院の不正	編輯部	
145	145	教育界情報	外國人に教へる日本語學校	編輯部	
146	147		創價教育學會の消息		目次では、「創價教育學會消息」と記載
147	147		教育・宗教革命正法研究會		八月中旬の予定を紹介
148	149		創價教育學會會員名簿		
150	153		創價教育學會要覽	創價教育學會	
154	154		編輯後記	編輯部	
154	154		奥付		

『新教』・『教育改造』索引

裏表紙裏	裏表紙裏		広告:増補改訂第64版発刊 戸田城外著「指導算術」	日本小学館	
裏表紙	裏表紙				

『新教』第6巻第6号 昭和11年6月15日

始頁	終頁	特集・連載	内容・タイトル	著者	備考
表紙	表紙				「六月號」と記載
表紙裏	表紙裏		広告:創價教育學体系全十二巻第五巻近刊 以下續刊	創價教育學會	
前付1	前付1		広告:川口白浦著「日本國史學發達史」他3冊	健文社	
前付2	前付2		目次		
前付3	前付3		目次		
前付4	前付4		目次		
前付5	前付5		改題宣言「新教」改題「教育改造」	創價教育學會	
前付6	前付6		月刊雜誌新教の使命、主張、本誌の陣容	創價教育學會	
1	1	巻頭言	『庶政一新』は教育宗教を革命せずして出来るか		目次では、「庶政一新は教育宗教を革命せずして出来るか」と記載
2	3		日本の教育改良に對する創價教育學會の使命	秋月左都夫	
4	12		女性と歴史(下)	柳田國男	
13	22		科學と宗教との關係を論ず(下) 綜合科學の運動に對して	牧口常三郎	目次では、「宗教と科學との關係を論ず(下)——綜合科學の運動に對して——」と記載
23	23	創價教育學に基く實踐證明報文	研究批判の基準		目次では、「創價教育學に基く實踐證明報文」と記載
24	27	創價教育學に基く實踐證明報文	「師範教育改善案」の修正案	創價教育學研究所	目次では、「師範教育改善案批判」と記載
27	38	創價教育學に基く實踐證明報文	漢字學習の實踐指導(上)	吉田義則	
38	43	創價教育學に基く實踐證明報文	比に關する一考察	木村榮	
44	51	創價教育學に基く實踐證明報文	綴方教授の比較的研究	下野友次郎	
51	55	創價教育學に基く實踐證明報文	長野縣教育者の創價教育學の欲求	高地虎雄	目次では、「長野縣教育者の創價教育學への欲求」と記載
55	55		原稿募集		
56	56	國史日本精神の宗教的再認識	國史教育再認識提唱		
57	61	國史日本精神の宗教的再認識	日蓮大聖人 四條金吾殿御返事		目次では、「四條金吾殿御返事」と記載
62	63	國史日本精神の宗教的再認識	「四條金吾殿御返事」拜讀の指針	堀米泰榮	目次では、「四條金吾殿御返事拜讀の指針」と記載
63	63	國史日本精神の宗教的再認識	「四條金吾殿御消息」の一節		
64	69	國史日本精神の宗教的再認識	徳川時代に於ける法難(下) 日蓮正宗 廣布山信盛寺史	教育・宗教革命研究會	目次では、副題省略
69	69		広告:月刊雜誌「大日蓮」	大日蓮社	
70	73	創價教育學講座(第五講)	教育態度論(續き)	牧口常三郎	目次では、「創價教育學講座 教育態度論(續)」と記載。内容は、「四 諸主義の教導態度の比較検討」
74	77	既成宗教の價值批判	日常生活に及ぼす宗教の効果	河野清丸	目次では、「日常生活に及ぼす宗教の効果」と記載
77	77		広告:「日蓮正宗法華經要品講話」	大日蓮社	
78	81	既成宗教の價值批判	萬教歸一運動座談會の批判	矢島周平	
81	81		広告:大石日應上人現下著「一代聖教諸宗一覽」	大日蓮社	

82	82	理想最高の宗教とは何ぞや	選定の標準		
83	84	理想最高の宗教とは何ぞや	日蓮大聖人 經王殿御返事		
85	85	理想最高の宗教とは何ぞや	日目上人 御申狀		
86	88	理想最高の宗教とは何ぞや	最高の教義無上の正宗(續)	櫻井仁道	
88	88		広告:堀日亨上人捉下著「日蓮正宗綱要」	雪山書房	
89	91	宗教革命の實踐記録	宗教革命最高正法教團道場體驗録	創價教育學會 宗教革命教團	目次では、「最上正法教團道場體驗記録」と記載
91	91		感想	小林清	
92	97	宗教革命の實踐記録	信仰流轉十年(上)	中野哲三	
97	97		広告:牧口常三郎先生著「教授の統合中心としての郷土科研究(改訂十版)」	日本小學館	
98	104	宗教比較講座	日蓮聖人の教義研鑽上の用心(上)	堀米泰榮	
104	104		日蓮大聖人の御歌		三首
105	105	最近變動の重要教材 教材寶庫	最近變動の重要教材選擇の基準、目次	創價教育學研究所	
106	106	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科 修身・國史	聖上陛下議會に勅語を賜ふ	創價教育學研究所	
106	106	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科 修身・國史	皇后陛下御親しく御掃立	創價教育學研究所	
106	106	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科 修身・國史	三笠宮殿下御歸京	創價教育學研究所	
106	106	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科 修身・國史	統治權の主權は天皇に存す	創價教育學研究所	
107	107	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科 修身・國史	外交史の第一冊完成	創價教育學研究所	
107	107	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科 修身・國史	世に出る御堂關白記	創價教育學研究所	
107	108	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科 修身・國史	江戸城の抜穴	創價教育學研究所	
108	111	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	世界の動き	創價教育學研究所	
111	111	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	菌・生糸産額の變遷	創價教育學研究所	目次では、「菌生糸産額の變遷」と記載
111	112	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	石油の生産と消費	創價教育學研究所	
112	112	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	名古屋市の人口	創價教育學研究所	
112	112	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	岡谷市の誕生	創價教育學研究所	
112	113	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	砂糖の需給	創價教育學研究所	
113	113	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	朝鮮の産金額	創價教育學研究所	
113	113	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	日滿 時計の握手	創價教育學研究所	目次では、「日滿時計の握手」と記載
113	114	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・地理	京濱運河埋立地計畫	創價教育學研究所	目次では、「京濱運河埋立地計畫」と記載
114	115	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・理科	素人日食觀測法 —六月十九日—	創價教育學研究所	目次では、副題省略
115	115	最近變動の重要教材 教材寶庫 關係教科・理科	時の話	創價教育學研究所	

『新教』・『教育改造』索引

115	116	最近奨励の重要教材 教材寶庫 関係教科・理科	氣象觀測船 —おきあがりこぼし船の建造—	創價教育學研究所	目次では、「氣象觀測船の建造」と記載
116	116	最近奨励の重要教材 教材寶庫 関係教科・理科	「放流鱒」の話	創價教育學研究所	目次では、「放流鱒の話」と記載
116	117	最近奨励の重要教材 教材寶庫 関係教科・理科	魔法ガラスの發明	創價教育學研究所	目次では、「魔法ガラスの發見」と記載
117	117		「法華經と後醍醐天皇」の訂正	編者	
118	121		漢字漫語	遠山光二	
122	126	教育實踐報告	算術事實問題指導に関する管見	松永淑	目次では、「算術事實問題に関する管見」と記載
126	132	教育實踐報告	歴史讀物と文藝讀物(其二) —ある少女の愛讀書—	竹澤義夫	目次では、「歴史讀物と文藝讀物」と記載
132	132		會員だより	鹿兒島縣 谷本生	
133	136		創價教育學會に對する感想	日下康郎	
133	135	會員通信	村から	長野 K生	「會員通信」の誤植
135	136	會員通信	返信に代へて		
136	136		お知らせ		本誌五月號・六月號掲載の牧口研究所長の「科學と宗教の關係を論ず」を近日中に學會パンフレット第六輯として刊行
137	138	教育宗教時評	迷信退治の迷信		
138	139	教育宗教時評	宗教の價值批判の問題		
140	140	教員文藝 新教歌壇	大石寺譜	渡邊力	目次では、「教員文藝 短歌」と記載
140	140	教員文藝 新教歌壇	をりゝゝの歌	瀧美厚之	
141	141	教員文藝 新教歌壇	開墾地風景	山路小夜子	
141	141	教員文藝 新教歌壇	五月	丘村比呂人	
141	141	教員文藝 新教歌壇	新光	土岐雅美	
142	142	海外教育事情	海外教育事情の目次		出典は、The Times Educational Supplement からと記載。g uPplement は、Supplement の誤植
142	144	海外教育事情	フィンランドの重農教育 農民高等學校の狀況	澁谷國忠(抄譯)	
144	145	海外教育事情	英國農村教育の方向 いづこも同じ題目をうたふ	澁谷國忠(抄譯)	
145	145	海外教育事情	國際音樂教育會議開かる—四月上旬ブラグにて—	澁谷國忠(抄譯)	
145	145[121]	海外教育事情	男女混合教育排撃さる	澁谷國忠(抄譯)	
146	146	教育界時報	目次		
146	146	教育界時報	議會に於ける漢字問題	編輯部	目次では、「教育界情報」と記載
146	146	教育界時報	智育偏重排撃	編輯部	
147	147	教育界時報	教員待遇問題	編輯部	
147	147	教育界時報	日本語講座—ローマ大學に新設—	編輯部	
147	147	教育界時報	學習院の教育改革—乃木精神の復活—	編輯部	
148	148		創價教育學會の消息		目次では、「創價教育學會消息」と記載
149	149		總會議事記録		目次では、「總會議事録」と記載
150	153		創價教育學會要覽	創價教育學會	
154	154		編輯後記	編輯部	
154	154		お願い		準會員に對して集金郵便の連絡
154	154		奥付		
裏表紙裏	裏表紙裏		広告:増補改訂第 64 版發刊 戸田城外著「指導算術」	日本小學館	
裏表紙	裏表紙				

教育改造 昭和11年7月15日(第6巻第7号)

始頁	終頁	特集・連載	内容・タイトル	著者	備考
表紙	表紙				「七月號」と記載
表紙裏	表紙裏		広告: 牧口常三郎先生著「教授の統合中心としての郷土科研究(改訂十版)」	日本小書館	
前付1	前付1		広告: 川口白清著「日本國史學發達史」他6冊、文雄・高松・受胎参考書、深田總清著「全譯古事記精解」他6冊	建文社	
前付2	前付2		広告: 「世界歴史大系」、「日本東洋西洋史籍解題」	平凡社	
前付3	前付3		目次		
前付4	前付4		目次		
前付5	前付5		目次		
前付6	前付6		目次		
前付7	前付7		広告: 増補改訂第64版發刊 戸田城外著「指導算術」	日本小書館	
前付8	前付8		広告: 戸田城外先生編著「讀方受験指導」	日本小書館	
1	1	巻頭言	學制改革案に對する平生文相の意氣		
2	18		師範教育内容改善修正案提出の趣旨	創價教育學研究所	
19	21		平生文相の學制改革腹案批判	創價教育學研究所	
22	26		善惡觀と大小觀との混迷—價值批判の原理—	牧口常三郎	
27	34		教育と小説 —青少年に小説を讀ませる可否とその處置—	名取堯	目次では、副題省略
35	35	創價教育學に基く實踐證明報文	研究批判の基準		目次では、「創價教育學に基く實踐證明報文」と記載
36	38	創價教育學に基く實踐證明報文	應用問題の教授法	戸田城外 田中脩一	
39	43	創價教育學に基く實踐證明報文	國史教授指導案	小林濟	
44	46	創價教育學に基く實踐證明報文	理科新學習指導案 —尋五、か(蚊)を一例として—	石澤泰治	目次では、「理科新學習指導」と記載
47	48	創價教育學に基く實踐證明報文	唱歌教育の問題 借を眼目とし指導技術を考察する	大木泰三	目次では、副題省略
48	51	創價教育學に基く實踐證明報文	童話創作の指導	三ツ矢孝	目次では、「童話創作指導」と記載
51	56	創價教育學に基く實踐證明報文	夏休みの課題としての養蠶實習指導の研究	土岐雅美	目次では、「夏休みの課題としての養蠶實習指導」と記載
57	60	創價教育學に基く實踐證明報文	農村青年指導 亂打せよ晩の鐘を	山田高正	目次では、「農村青年指導案」と記載
61	67	創價教育學講座(第六講)	教育態度論(續き)	牧口常三郎	目次では、「創價教育學講座 教育態度論(續き)」と記載。内容は、「五 諸主義教育の目指す歸結點如何」「六 感化と啓發」
68	68	最近變動の重要教材 (創價教育學に基づける教材選擇の實例)	最近變動の重要教材選擇の基準、目次		
69	69	最近變動の重要教材 關係教科 修身・國史	思想問題を御珍念 —司法長官に御賜答—		目次では、副題省略
69	69	最近變動の重要教材 關係教科 修身・國史	皇太子殿下の新御殿地鎮祭		目次では、「皇太子殿下の新御殿着工」と記載

69	69	最近變動の重要教材 関係教科 修身・國史	畏し深き叡慮 —オリンピック大會 出場を前に體育協會へ御下賜金—	目次では、副題省略
69	70	最近變動の重要教材 関係教科 讀方	夏山の福音鳩が救ひ神	目次では「鳩が救ひ神」と記載
70	70	最近變動の重要教材 関係教科 國史	尋五國史第八、天智天皇と藤原鎌 足三六頁五行に記入 —滋賀の都 をあとに近江神宮の建立—	目次では、「近江神宮建立」と記載
70	70	最近變動の重要教材 関係教科 國史	上代の群馬地方は輝く文化の中心	目次では、「上代群馬縣地方の文化」と 記載
71	72	最近變動の重要教材 関係教科 國史	地圖の機軸時代 —葡國出版舶來 日本地圖—	目次では、副題省略
72	72	最近變動の重要教材 関係教科 國史	成吉思汗の城發掘	目次では、「ジンギスカンの城發掘」と 記載
72	72	最近變動の重要教材 関係教科 國史	高杉晋作・菊池武光の銅像	目次では、「高杉晋作菊池武光の銅像」 と記載
72	73	最近變動の重要教材 関係教科 國史	大井川・思ひ出の「蓮臺越」	目次では、「大井川思ひ出の蓮臺越」と 記載
73	73	最近變動の重要教材 関係教科 地理	聯合艦隊を充實 —新に二主力戦 隊編成—	目次では、副題省略
73	73	最近變動の重要教材 関係教科 地理	東京・下関間十五時間 —山陽線 のスピード化—	目次では、「東京下関間十五時間」と記 載。
74	74	最近變動の重要教材 関係教科 地理	滿州國治外法權撤廢 —課税權と 産業行政權—	目次では、副題省略
74	75	最近變動の重要教材 関係教科 地理	日濠貿易關係 —對日關稅引上—	目次では、副題省略
75	76	最近變動の重要教材 関係教科 地理	日滿獨貿易關係 —滿獨貿易協定 成る—	目次では、「滿獨貿易協定成る」と記載
76	77	最近變動の重要教材 関係教科 地理	米國向け綿布に門戸閉さる —關 稅引上げ發令—	目次では、副題省略
77	77	最近變動の重要教材 関係教科 地理	繭の産額	
77	78	最近變動の重要教材 関係教科 地理	生糸の生産額 —昭和九年度—	目次では、「生糸の産額」と記載
78	78	最近變動の重要教材 関係教科 地理	—アラスカ公海へ— 魚塲躍進の 第一段	目次では、「漁場躍進の第一段」と記載
78	79	最近變動の重要教材 関係教科 地理	世界各國漁船數 —海軍有終會調 査—	目次では、副題省略
79	79	最近變動の重要教材 関係教科 地理	海外各地在留邦邦人數 —昭和九 年十月一日外務省調査—	目次では、副題省略
79	79	最近變動の重要教材 関係教科 地理	馬頭數	目次では、「馬の頭數」と記載
79	79	最近變動の重要教材 関係教科 地理	茶の産額 —昭和九年度—	目次では、副題省略
79	80	最近變動の重要教材 関係教科 地理	絹織物の産額 —昭和九年—	目次では、副題省略
80	80	最近變動の重要教材 関係教科 地理	東京市に於ける玩具工業	
80	80	最近變動の重要教材 関係教科 地理	開釜連絡船の今昔 —大汽船「金 剛丸」が進水—	目次では、副題省略
80	81	最近變動の重要教材 関係教科 地理	帝國議會新議事堂	目次では、「帝國議會新議事堂成る」と 記載
81	81	最近變動の重要教材 関係教科 地理	エクワドル恐日病 —ガラパゴス島 を米國へ賣り—	目次では、副題省略
81	82	最近變動の重要教材 関係教科 地理	ヒマラヤ征服へ —立教健兒の壯 舉—	目次では、「ヒマラヤ山征服へ」と記載

82	82	最近變動の重要教材 関係教科 理科	尋五 理科 第三八石灰六八頁四行 に記入 石炭液化の工業化 —徳 山に大工場建設—		目次では、「石炭液化の工業化」と記載
83	83	最近變動の重要教材 関係教科 理科	東京府下奥多摩に有史以前の鍾乳 洞		目次では、「有史以前の鍾乳洞」と記載
83	84	最近變動の重要教材 関係教科 理科	皮下種痘時代来る		
84	84	最近變動の重要教材 関係教科 理科	鼠は傳染病菌を配達せず —興味 深い實驗報告—		目次では、副題省略
84	84	最近變動の重要教材 関係教科 理科	燃えない木材		
85	87	既成宗教並に生活指導原理の批 判	平和生活の最大正法	矢島周平	目次では、「既成宗教並生活指導原理 の批判」と記載
87	91	既成宗教並に生活指導原理の批 判	儒教の根本的缺陷とその修正	渡邊力	目次には、「儒教の根本的缺陷」と記載
91	93	既成宗教並に生活指導原理の批 判	神と法との問題	渡利信夫	
93	96	既成宗教並に生活指導原理の批 判	彼比兩岸に迷ふ眞宗	高地虎雄	
96	97	既成宗教並に生活指導原理の批 判	この親ゆゑに子は涙の半生 —開 かぬ心の扉を如何にするか—	小川清	目次では、「此の親ゆゑに子は涙の半 生」と記載
98	98	理想最高の宗教とは何ぞや	選定の標準		目次では、「理想最高の宗教」と記載
99	99	理想最高の宗教とは何ぞや	日蓮大聖人 聖訓 日出て 後の 星の光		目次では、副題省略
100	101	理想最高の宗教とは何ぞや	日蓮上人 御申狀		
102	102	理想最高の宗教とは何ぞや	日蓮大聖人聖訓拜讀の指針	堀米泰榮	
103	103	理想最高の宗教とは何ぞや	日蓮上人御申狀拜讀の指針	堀米泰榮	
104	107[138]	理想最高の宗教とは何ぞや	正法は唯一なり	千種法輝	
108	114	宗教革命の實踐記録	宗教革命断行の生活實踐録	創價教育學會 宗 教革命教團	
114	118	宗教革命の實踐記録	獨人東西行脚	谷本進	
119	122	宗教革命の實踐記録	信仰流轉十年(下)	中野哲三	
122	123	宗教革命の實踐記録	教育生活断片	木村光雄	
124	128	宗教比較講座	日蓮聖人の教義研鑽上の用心(下)	堀米泰榮	目次では、「日蓮聖人の教義研鑽上の 用心」と記載
129	131	綠蔭閑話	もぐら	東都版	
131	133	綠蔭閑話	眞理をえぐる	下村幸三	目次では、「眞理を抉る」と記載
133	133	綠蔭閑話	小ばなし		
129	131	會員通信	皇國の爲めに	宮城 星生	
131	133	會員通信	教育革新の爲めに	鹿兒島 柳田生	
133	133	會員通信	支部研究會開催	茨城縣 菊池生	
134	134	徳育指導ニュース	徳育指導ニュースの目次		
134	134	徳育指導ニュース	切々胸を打つ北満勇士の書面		
134	135	徳育指導ニュース	あつぱれ級長		
135	135	徳育指導ニュース	棄てられた子の純愛よく父を改む		
135	135		広告・月刊雑誌「大日蓮」	大日蓮社	
136	138[107]	質問に答へて	法華經と創價教育學との關係	教育宗教革命研究 會	内容は、「一、日蓮正宗のみが正しい 信仰であると言ふ理由如何」、「二、最 高正宗の入信者の種類について」
139	139		本誌の機構	編輯部	
140	140	教育宗教時評	教育宗教時評の目次		

140	143	教育宗教時評	教員根性(上)	戸田城外	目次では、「教員根性」と記載
143	143	教育宗教時評	世界教育會議よ	深山春水	目次では、「世界教育會議」と記載
144	144	教育宗教時評	匿名批評の輿論性	小野新吾	
144	145	教育宗教時評	刑法改正と教育改造	外岐雅樹	目次では、「刑法改正と教育問題」と記載
145	145		創價教育學會パンフレット		「創價教育學體系梗概」、「赤化青年の完全轉向は如何にして可能なるか」、「轉向教師らのゆくへ」、「科學と宗教との關係を論ず」(近刊)贈呈について
146	146	教育宗教時評	時まさに非常時	深山春水	目次には、「深山」と記載
147	147	教育宗教時評	宇宙のモラル	河田信彦	
148	149	海外教育事情	米國教育界のあゆみ	澁谷國忠(抄譯)	出典は、The Times Educational Supplement からと記載
149	149[145]	海外教育事情	ソ聯教育體系要覽	澁谷國忠(抄譯)	145 ページ 3 段に続き完結
150	151	教育界情報		編輯部	コピー欠落
152	153		創價教育學會消息		153 ページに会員名簿
154	154		編輯後記	編輯部	
154	154		奥付		
裏表紙裏	裏表紙裏		広告: 戸田城外、山田高正共著「推理式讀方指導 模範解答附」	日本小學館	
裏表紙	裏表紙		広告: 牧口常三郎先生著「創價教育學體系全十二巻」	創價教育學會	

2. 『新教』・『教育改造』執筆者一覧

凡 例

一、人名の順序は、原則として掲載順である。

一、同一人物が、異なった表記になっている場合もあるため、その可能性がある場合は、前項にかかわらず、できるだけ並べて記載した。

一、肩書、勤務先等は、表記に従った。

人名	肩書・勤務先等	都道府県	掲載されている巻・号数	備考
牧口常三郎	創價教育學研究所長		第5巻第12号別冊、第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第3号、第6巻第4号、第6巻第5号、第6巻第6号、第6巻第7号	
牧口			第6巻第2号	
池岡直孝	明治大學教授		第6巻第1号	
高田規一郎			第6巻第1号	
名取堯	帝國美術學校教授		第6巻第1号、第6巻第5号、第6巻第7号	
岡田文秀	創價教育學會顧問 前千葉県知事 内務省衛生局長		第6巻第1号	
吉田義則	創價教育學研究員 東京市桃園尋常高等小學校		第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第3号、第6巻第4号、第6巻第5号、第6巻第6号	
渡邊春夫			第6巻第1号	
渡邊力	創價教育學會幹事		第6巻第2号、第6巻第3号、第6巻第6号、第6巻第7号	

木崎清二郎			第6巻第1号	
小野新吾			第6巻第1号、第6巻第7号	
小野生			第6巻第1号	
小野			第6巻第2号	
小野謙吾			第6巻第2号	
土田勝			第6巻第1号	
兒玉音吉	内務省警務官補		第6巻第1号	目次では、肩書きを「内務省保安課」と記載
山中芳男			第6巻第1号	
山中行雄	創価教育學會會員 茨城縣結城郡西豊田第一校		第6巻第2号、第6巻第3号、第6巻第4号	
堀米泰榮			第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第3号、 第6巻第4号、第6巻第5号、第6巻第6号、 第6巻第7号	
巷三平			第6巻第1号	
巷生			第6巻第2号	
三平			第6巻第1号	
XYZ			第6巻第1号	
S 生			第6巻第1号	第6巻第1号(39 頁)の「新刊紹介」を記述
K 生		N 縣	第6巻第4号	「會員だより」に寄稿
K 生		長野縣	第6巻第6号	「會員通信」に寄稿
小原景次	創價教育學會正會員 東京市澁野川第三尋常小學校		第6巻第1号、第6巻第2号	
川又長	創價教育學會會員 茨城縣長倉小學校		第6巻第1号、第6巻第5号	
桑野春彦	熊本縣大道小學校		第6巻第1号	
川瀬和夫	名古屋市門前學校		第6巻第1号	
大内康弘	茨城縣日立第三小學校		第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第4号	本文では、「大内康弘」だが、目次では「大内」と記載(第6巻第2号)
澁谷筍吉			第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第3号、 第6巻第4号	
澁谷			第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第4号	
澁谷生			第6巻第1号、第6巻第3号	
澁谷信義	創價教育學會「新教」編輯部			
澁谷國忠	創價教育學會特別贊助會員	横浜市	第6巻第2号、第6巻第3号、第6巻第5号、 第6巻第6号、第6巻第7号	
丘村比呂人			第6巻第2号、第6巻第4号、第6巻第5号、 第6巻第6号	澁谷國忠の筆名、(注6)参照
澁哲夫			第6巻第1号	
三井和			第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第3号、 第6巻第4号	
三井章敬			第6巻第2号	
土岐雅美	創價教育學研究所員		第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第3号、 第6巻第4号、第6巻第5号、第6巻第6号、 第6巻第7号	
土峰雅美			第6巻第2号	本文では、「土峰雅美」だが、目次では「土岐雅美」と記載
土岐生			第6巻第2号、第6巻第4号	
土岐			第6巻第3号	
渥美厚之			第6巻第1号、第6巻第6号	
渥美厚			第6巻第5号	
小林生			第6巻第1号	

小林清	創價教育學會「新教」編集部		第6巻第2号、第6巻第3号、第6巻第4号、 第6巻第5号、第6巻第6号、第6巻第7号	第6巻第7号では、肩書を「創價教育學研究所」 と記載
小林			第6巻第3号	
小林生		石川縣	第6巻第4号	
小川生			第6巻第3号	目次では、「小川清」と表記(第6巻第3号)
小川清			第6巻第7号	
戸田城外	創價教育學會常務理事		第6巻第7号	
山田高正	創價教育學會理事		第6巻第7号	
矢島周平	創價教育學會幹事		第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第3号、 第6巻第4号、第6巻第5号、第6巻第6号、 第6巻第7号	
矢島生			第6巻第1号、第6巻第2号	
矢島			第6巻第1号、第6巻第2号、第6巻第3号、 第6巻第4号、第6巻第5号	本文では「矢島」だが、目次では「矢島周平」と記 載(第6巻第1号、第3号)
村上貞吉	満州國法律顧問		第6巻第2号	
菊池正大			第6巻第2号、第6巻第4号	
菊池生		茨城縣	第6巻第7号	「會員通信」に寄稿
櫻井三之助			第6巻第2号	本文では「櫻井三之助」だが、目次では「櫻井」と 記載
三矢孝			第6巻第2号	
三ッ矢孝	創價教育學研究員 東京市亀青尋常高等小學校		第6巻第3号、第6巻第4号、第6巻第5号、 第6巻第7号	
篠原雄	創價教育學會特別賛助會員 綜合科學協會常任幹事		第6巻第2号、第6巻第3号、第6巻第4号	
木村榮	創價教育學研究員 東京市菅刈尋常小學校		第6巻第2号、第6巻第3号、第6巻第5号、 第6巻第6号	
桂御門敏郎			第6巻第2号	
河野元伸			第6巻第2号	
林幸四郎	創價教育學研究員 東京市麻布高等小學校		第6巻第2号	「會員だより」に寄稿
平林治芳	創價教育學會會員	長野縣	第6巻第2号	同上
丹治半三郎			第6巻第2号	
秋月左都夫	創價教育學會顧問 前學習院御用掛		第6巻第3号、第6巻第6号	第6巻第6号では、肩書を「元埃地利大使 本學 會顧問」と記載
石澤泰治	創價教育學研究所員		第6巻第3号、第6巻第4号、第6巻第5号、 第6巻第7号	
石澤			第6巻第4号	
渡部政盛			第6巻第3号	
野々田健三	創價教育學會正會員 東京市根岸尋常小學校		第6巻第3号	創價教育學研究所と合同、野々田氏は實驗と記 載
貴島氏		宮崎縣	第6巻第3号	「會員だより」に寄稿
田中通			第6巻第3号	
酒井比呂志			第6巻第3号	
辻信一郎			第6巻第3号	
藤岡喬一			第6巻第3号	
柳田國男	創價教育學會顧問 元貴族院書記官長		第6巻第4号、第6巻第5号、第6巻第6号	
有村陽三	創價教育學研究員 東京市大原尋常小學校		第6巻第4号	
下野友次郎	創價教育學會正會員 東京市桃園尋常高等小學校		第6巻第4号、第6巻第6号	第6巻第5号に掲載されている名簿では、「下野 友二郎」と記載

湯田生			第6巻第4号	「会員だより」に寄稿
和田龍谷			第6巻第4号	
松田解子			第6巻第4号	
中島利平		鹿児島県	第6巻第4号	「会員だより」に寄稿
櫻井仁道			第6巻第4号、第6巻第5号、第6巻第6号	
山内正徳			第6巻第2号	
渡利生			第6巻第4号	「会員だより」に寄稿
渡利信夫			第6巻第7号	
中野哲三			第6巻第4号、第6巻第6号、第6巻第7号	
平井義朝		広島県	第6巻第4号	本文では「平井義朝」だが、目次では「平井義明」と記載
森永隆義		鹿児島県	第6巻第4号	「会員だより」に寄稿
福井三郎			第6巻第4号、第6巻第5号	
湯田生			第6巻第4号	
大平謙一			第6巻第4号	
山路小夜子			第6巻第4号、第6巻第6号	
谷井靖治			第6巻第4号	
高地虎雄	創価教育學研究所員		第6巻第5号、第6巻第6号、第6巻第7号	
近村四郎			第6巻第5号	
鮫島利治	創価教育學會會員	鹿児島県	第6巻第5号	
竹澤義夫			第6巻第5号、第6巻第6号	
山縣武夫	宮内省式部職外事課長		第6巻第5号	
伊藤操		長野県	第6巻第5号	
坂口貴敏			第6巻第5号	
押見吉樹			第6巻第5号	
河野清丸			第6巻第6号	
遠山光二			第6巻第6号	
松永椒		和歌山県	第6巻第6号	
谷本生		鹿児島県	第6巻第6号	「会員だより」に寄稿
谷本進			第6巻第7号	
日下康郎			第6巻第6号	
田中脩一	創価教育學研究所		第6巻第7号	
大木泰三	創価教育學研究所		第6巻第7号	
千種法輝			第6巻第7号	
木村光雄	創価教育學研究員 東京市碑尋常高等小學校		第6巻第7号	
東都版			第6巻第7号	
星生		宮城縣	第6巻第7号	「會員通信」に寄稿
下村幸三			第6巻第7号	
柳田生		鹿児島県	第6巻第7号	「會員通信」に寄稿
深山春水			第6巻第7号	
深春山水			第6巻第7号	本文では「深春山水」だが、目次では「(深山)」と記載
外岐雅樹			第6巻第7号	
河田信彦			第6巻第7号	

3. 『新教』・『教育改造』の無記名の巻頭言

『新教』第6巻第4号（昭和11年4月15日）

巻頭言 平生新文相の所謂「精神教育」の内容及方法は如何

今度の廣田内閣が、歴代内閣の慣例に洩れて、文部大臣の銓衡難に陥つたのは、二・二六事件で未曾有なる不祥事の影響として、吾々は教育革命の上に、不幸中の幸と聊か慰むるに足ると思ふ者である。何となれば國策の根柢培養の重任たるべき文教の首腦者が、いつも伴食大臣であつてもよかつた恒例が圖らずも破られたからである。

そこでこの破格なる文部大臣が、果して如何なる抱負を以て、その荷はされた非常責任を果さうとするかは、一般の注目する所であるのに對し、精神教育の徹底を圖らうとする決心を發表されたのは、時節柄、國民の等しく同感を表する所であらう。が、その内容と方法こそ、早く聞かうとする所であらう。どの文部大臣でも、精神教育を重要視しないものではなく、智育偏重、德育偏輕の缺陷を氣付かなかつた筈もない。にも拘はらず、今日に至つたのは何故か。

肝心なる精神教育の内容及び方法にまで、想が及ばざりし結果でないか。敢て智育を遍重し德育を遍輕したのではない。いかに德育を遍重したくても、その方法が解らなかつたからであらう。さてそれに對して如何なる案の纏まつたものがあるか。恐らくはこれからやつと「具體案を樹てねばならぬ」と平生文相が云ふ通りであらう。けれども日は忽ち暮れてしまふ。我等が聊か創價教育學を原案として提出する所以であるが、一顧の雅量ありや否や。

『新教』第6巻第5号（昭和11年5月15日）

巻頭言 平生文相に文教刷新の希望

國民生活の總ての刷新を指導する根本方針を、立案審議する參謀本部を以て任務とすべき文部省それ自體が、文教刷新委員會の仕事の對策となり下つて仕舞つた今回の非常事件によつて、意外の方面より破格の拔擢を受けて登場し、天下の視聽を集めつゝある平生文相が、果していかなる抱負を以て、社會の期待に酬ふんとするかとは、吾等が前號に於て直言しておいた所である。

明治大正以來、半世紀の永き、繃縫に繃縫を重ねて時勢の進運に伴ふことなく、全く手の着けられぬほどに行詰らせられたこの國の文教を刷新せんとすることは、いかに手腕を有する大臣でも容易の事でないことは察するに難くない。況や非常事件後の時局收拾の使命を以て出現した内閣の文相に於てをや。

この際に於て吾々が國民として文教刷新斷行の衡に當られる平生文相に對して、忌憚なき希望を呈したい事は、徒に部分的枝葉末節の繁多なる改革に着手し、やつて見て何も彼もといふ案外な衝突に手を焼き、いつもゝゝゝ研究倒れ未解決のまゝに退却し、今日の行詰りを來たした是までの覆轍を踏まないやうにすることである。而して教育行政は人民の爲すがまゝの生活に追隨し、

弊害の方面をのみ統制すれば足るといふ消極的活動なる普通行政とは全く性質を異にし、常に作戦計畫を綿密に系統的に準備しておいて、國防上の目的を達するに遺漏なからしめる陸海軍の行政と同様に系統的なる目的と手段との計畫的遂行を要する積極的な基礎的仕事であることを明確に認識してかゝらねばならないものであり、しかも教育改革は一般普通の常識だけではとても決し難い複雑廣汎の専門的難事業であることを認識し、根本的な指導原理を把握した上でなければならぬといふことである。

『新教』第6巻第6号（昭和11年6月15日）

巻頭言 『庶政一新』は教育宗教を革命せずして出来るか

一國も一校も一家も一身も、心身を要素とする有機的統合生活體たるに於て異ひはない。異體同心の生活體と、異心同體の生活體とは、世間で一向にその區別さへも意識しないで生活してゐるやうであるが、實は天地雲泥の相違なることを意識して、治者も被治者も生活を立直さねばならぬことを痛感する。

異心同體の團體の標本は動物園や刑務所に於て之を觀る。國際聯盟の如きもそれに類する。澤山の鰐を摺鉢にピチ、ゝさせておくやうなもので、彈壓力によつて外形上は一團體となつてゐても、内部の心は十人十色分解力のみが働き、隙さへあれば飛出さうとしてゐる。故に其團體を維持せんとするには莫大の費用と勞力とを絶えずつぎ込んでゐなければならぬ。團體の形はあつても何等の價值あるものはない。蓋し内部には精神の統合が無く、結合力よりは分散力が強いからである。異體同心の社會團體は之に反し、彈壓力を以て外形的に統合を強制せずとも、各員の自發力による内部からの精神的結合力によつて分解を免れ、統合が遂げられ、所屬の團員はすこしの不安もなく、楽しんで暮して行ける共同生活團體である。人間のすべての集團が國家は勿論、これまでに成るならば、圓滿團樂の家庭の如く春風駘蕩の淨土として何人も希望するものであらう。たとへ現世には實現し難いとしても、一步でも近付きたいとするのが人間の理想であらう。それは外からの壓力で分解を防禦するよりは、内からの吸引力によつて團結するやうにしなければならぬ事は言ふまでもあるまい。然らば今日の教育宗教の革命をすることなくして、どうしてそれに近付くことが出来るか。今の教育が極度に行詰り、所謂「拔本塞源」の革命的大施術を要すること、折角の教學刷新委員會が又も立腐の姿になつてゐるのでも解る通り故敢て云ふのである。急がば廻れ。甚だ迂遠なる言論のやうでも、根本を等閑にした枝葉末節の修繕は、刑務所か動物園の仕事に過ぎぬ。却つて成さざるに勝ると思ふからである。

教育革命を斷行するに至らば、當然宗教革命にまで及ばねばならぬことは、これ又多言を要せぬ所と信ずる。「庶政一新」は之に至らなければ無駄であり、無意義である。

『教育改造』第6巻第7号（昭和11年7月15日）

巻頭言 學制改革案に對する平生文相の意氣

伴食でも何でも構はぬから、一度なつて見たいとする、抱負も何もない大臣か、さもなければ、伴食大臣でも差支がないほどの閑職なるが故に、いやではあるが、誰れかが据らなければ、内閣の組織が出来ないので、止むを得ずなつてやろうといふ、抱負のない腰掛け大臣か。でなければ森有禮の如き、ともかくも一見識を以て進んで出るものは滅多にない。社會も敢て之を怪しまないのが、文部大臣のきまつた相場であつたのに、今後の文部大臣だけは、どうやら型破りの姿を以て登場したのは、聊か世の意外とした所であつた。之は國家社會の生活改造が政治經濟等の枝葉末節の改革だけでは、應急投藥の對病療養でしかなく、教育宗教の根柢培養にあらざる限り、永久に不可能であるといふことに、やつと氣付いた結果と、我等の心竊かに期待をかけた所であつた。

然る所果して平生文相は、斯ほどまで行詰つても、なほ且つ傳統に執着して、覺醒しきれぬ官僚學閥などの殻を破り、學制改革を根本的に斷行せんと表明したのは、たとへ氣勢だけにしても、從來の惰眠を貪り、沈滞腐敗の醜態を暴露しつゝあつた教育界に對して、曉の警鐘と謂つてよからう。今度こそは何とか目鼻をつけて欲しい。その爲には教育の本質を常識以上に研究して立案されんことを切望する。